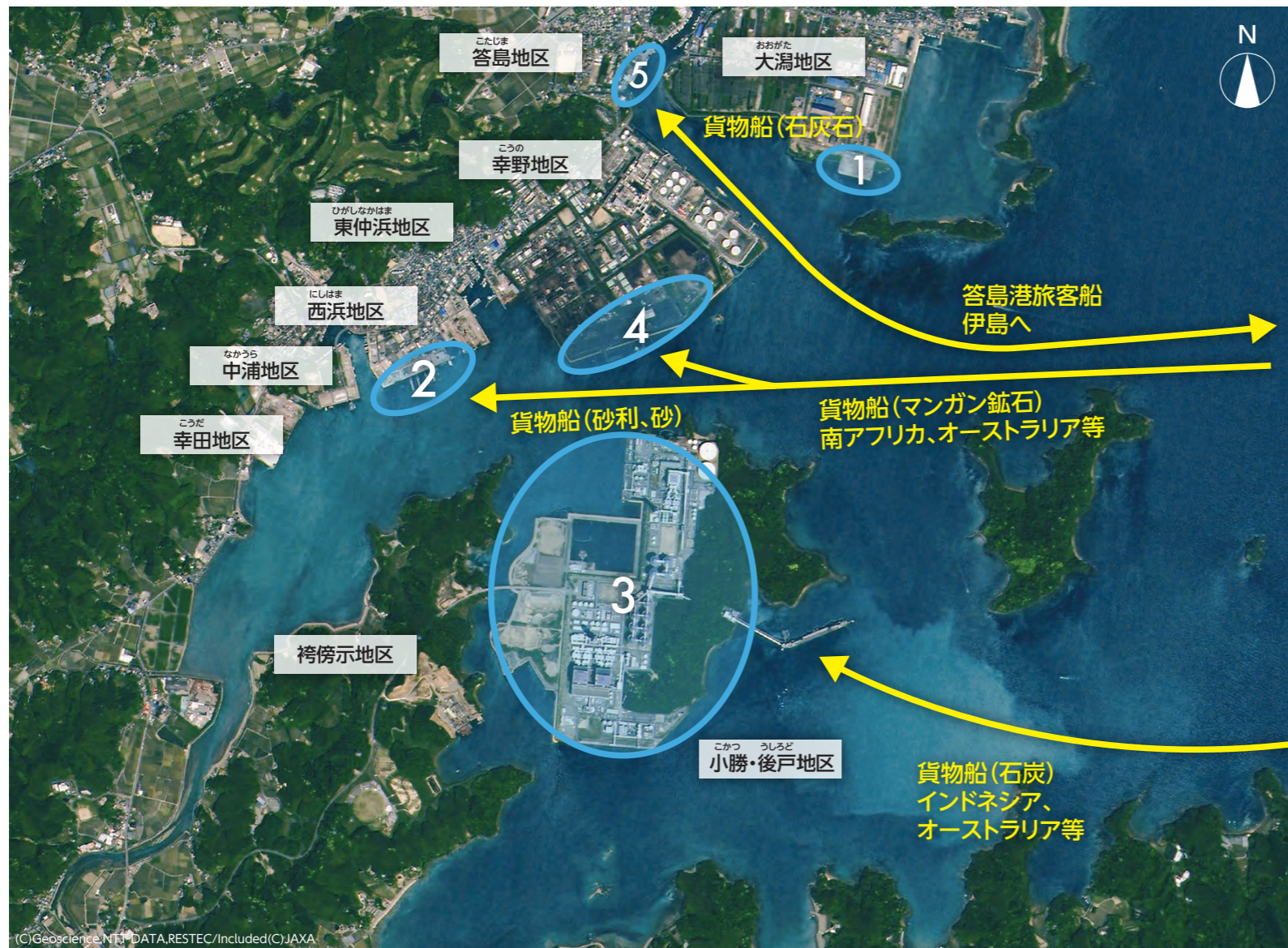
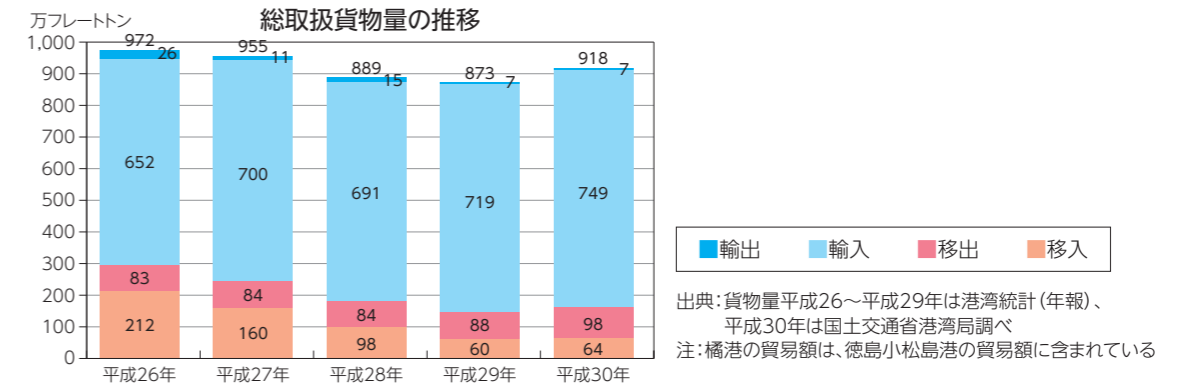


# 橘港 (重要港湾)

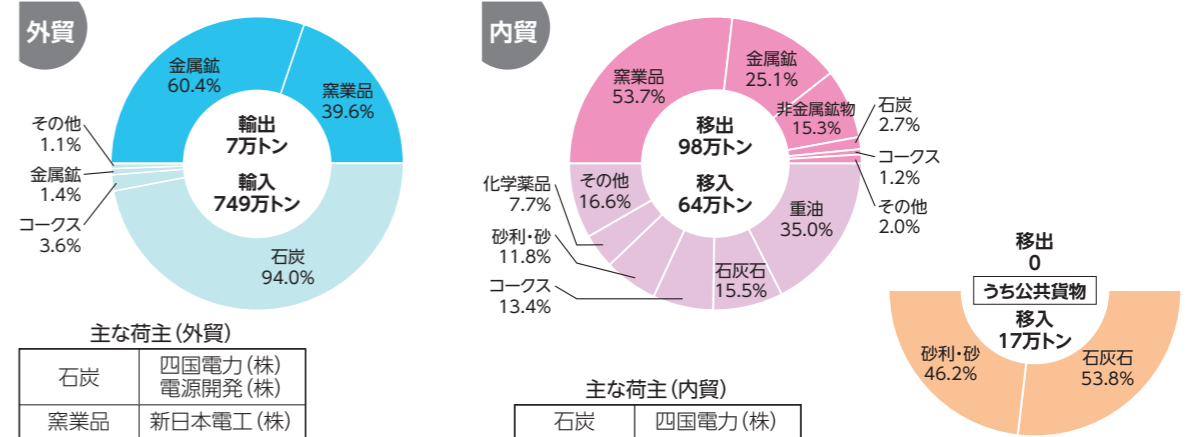


## 橘港の取扱貨物データ (平成30年)

### 平成30年 取扱貨物量



### 取扱貨物の品目内訳 (平成30年)



## 橘港の主な定期航路 (令和2年4月現在)

その他内航定期航路	船社名	便数
伊島～答島	伊島連絡交通事業(有)	3便/日

## 概要

橘港は、徳島県東部に位置する橘湾内にある天然の良港です。昭和初期には、阪神～高知航路の中継港として栄え、昭和25年から工業用地の造成が進み、昭和38年には四国電力(株)の阿南火力発電所が立地しました。また、平成7年には四国電力(株)の橘湾発電所及び電源開発(株)の橘湾火力発電所の整備が始まり、平成12年に運転を開始しました。現在では、発電用石炭の輸入や、窯業品、金属鉱、非金属鉱物の移出が多く行われています。

### 1 大湊地区

平成3年度に公共埠頭の整備に着手し、平成13年度には耐震強化岸壁(延長100m、水深5.5m)と岸壁(延長60m、水深5m)の供用を開始しました。



大湊地区岸壁

### 2 西浜地区

西浜地区(水深5.5m)の岸壁は老朽化が著しく、使用制限がかかっており、早期復旧を目指して整備を進めています。



西浜地区岸壁

現在、徳島県が岸壁3バース(延長270m)改良工事を施工中であり、その内90mを平成27年度に、60mを令和元年度に部分供用しています。

また、水深4mの物揚場では砂利・砂が取扱われており、県内の取扱量の22.9%を占めています。(平成30年の県内取扱量は取扱量は35万トン、西浜地区は約8万トン。)

### 3 橘湾火力発電所

西日本における電力確保及びエネルギー源の多様化に対応するため、火力発電所が立地しています。橘港では主にインドネシア、オーストラリアから石炭が年間約700万トン輸入されています。四国電力(株)と電源開発(株)が主な利用者であり、橘港の石炭輸入量は四国全体の42.3%を占めています(平成30年時点四国第1位)。

四国電力(株)橘湾発電所と電源開発(株)橘湾火力発電所の総出力は280万kW(一般家庭の約140万世帯分)であり、四国内のみならず、関西・中国・九州地域にも送電されています。



### 4 幸野地区

幸野地区の新日本電工(株)徳島工場は、南アフリカ及びオーストラリアから年間約40万トンマンガン鉱石を輸入し、合金鉄(高炭素フェロマンガ)を生産しています。

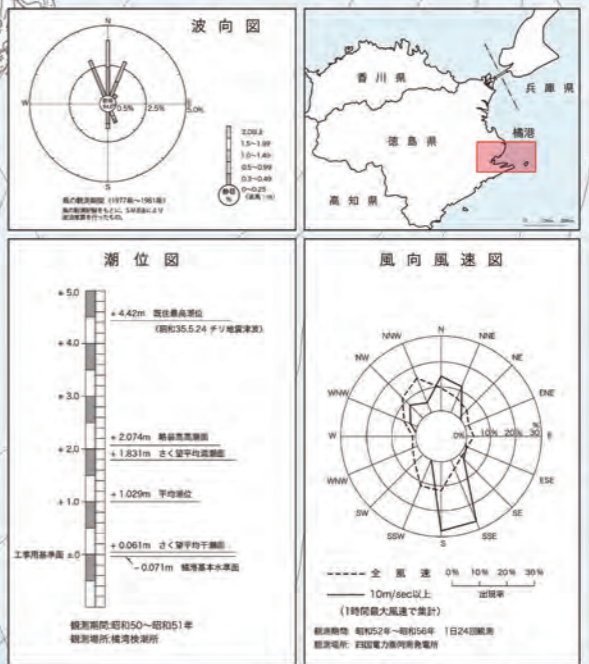
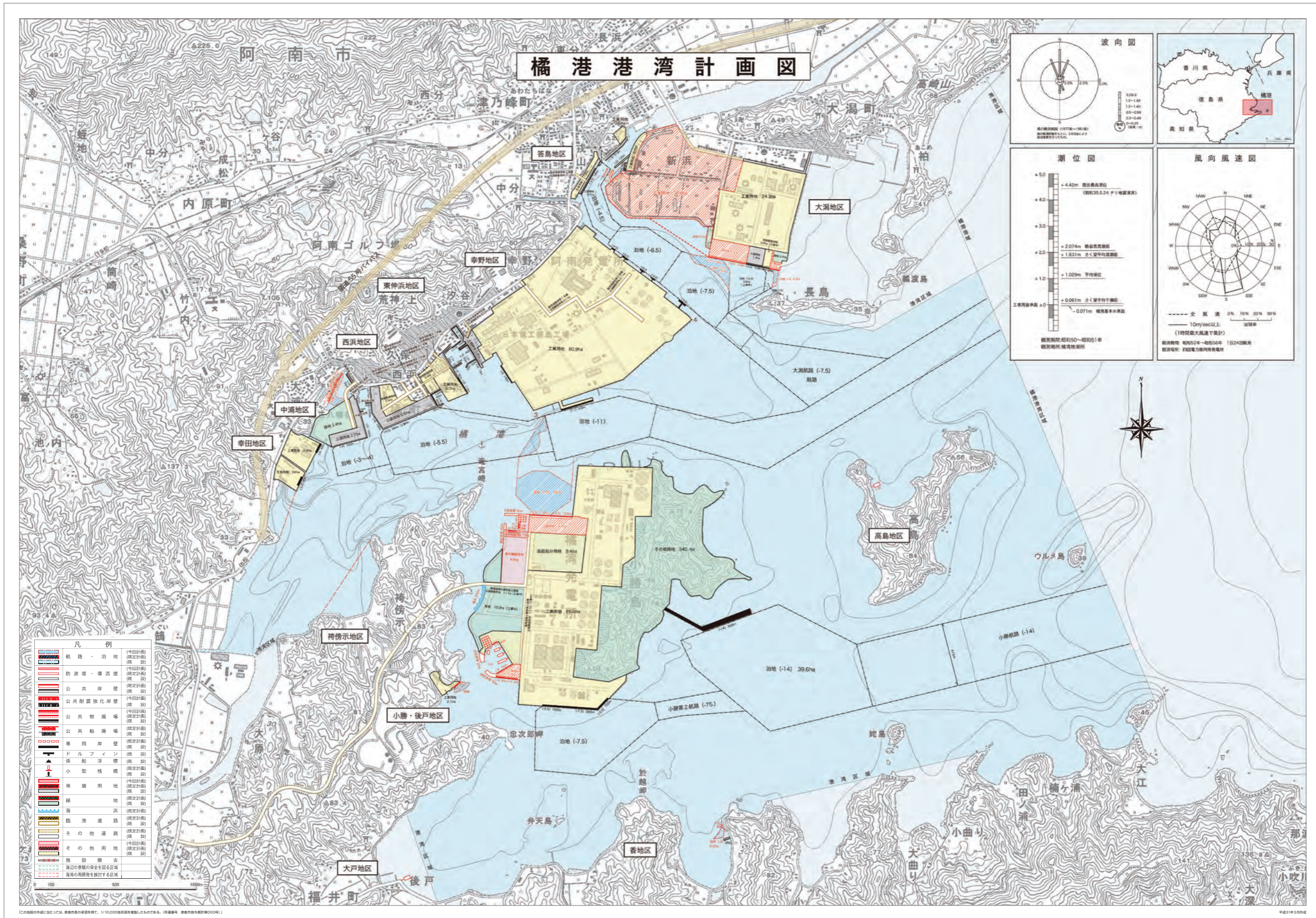


### 5 答島地区

1日3便旅客船が答島～伊島間の往復しています。また、石灰石を取り扱っており、県内の取扱量の95.6%を占めています。(平成30年の県内取扱量は取扱量は約9.3万トン、西浜地区は約8.9万トン。)



# 港湾計画図【橘港】



凡 例	
	航路・泊地 (既定計画) (既 80)
	防波堤・導流渠 (既定計画) (既 80)
	公共岸壁 (既定計画) (既 80)
	公共耐震強化岸壁 (既定計画) (既 80)
	公共物揚場 (既定計画) (既 80)
	公共船揚場 (既定計画) (既 80)
	専用岸壁 (既定計画) (既 80)
	ドルフィン (既定計画) (既 80)
	係船浮標 (既定計画) (既 80)
	小型板橋 (既定計画) (既 80)
	埠頭用地 (既定計画) (既 80)
	岸 (既定計画) (既 80)
	臨港道路 (既定計画) (既 80)
	その他道路 (既定計画) (既 80)
	その他用地 (既定計画) (既 80)
	施設撤去 (既定計画) (既 80)
	海岸の安全を確保する区域 (既定計画) (既 80)
	海岸の崩壊を防止する区域 (既定計画) (既 80)

主な計画変更の経緯

- ・昭和39年7月(1964年)新規
- ・昭和48年12月(1973年)一部変更
- ・平成1年7月(1989年)改訂
- ・平成6年6月(1994年)一部変更